

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 27 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22530694

研究課題名(和文) 仲間関係における認知・情動制御と比較文化発達精神病理学

研究課題名(英文) Cultural developmental psychopathology: Cognitive regulation and emotional regulation in peer relation

研究代表者

中澤 潤 (Nakazawa, Jun)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：40127676

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円、(間接経費) 1,050,000円

研究成果の概要(和文)： 対人行動の認知制御、情動制御と適応との関係を、文化比較という観点から検討した。自閉症乳児の泣き声は健常児の泣き声と比べ、人種(日本人、イタリア人)を問わず苦痛感を喚起し、それは高い声とリズムの少なさという特徴によることを明らかにした。また人種の異なる成人と乳児の顔への情動反応(体温)では、人種を問わず体温は乳児顔には高く成人女性には低くなるが、認知反応では人種差が見られ、日本人成人の顔に接近、白人成人の顔に回避が見いだされた。

さらに、米国、トルコ、マレーシア等との比較研究として、親の養育と幼児の制御の関連を検討しているが、日本以外の各国のデータ収集を待ち国際比較を行う。

研究成果の概要(英文)： This research project examines the causal relationship between "cognitive regulation and emotion regulation" and interpersonal adjustment from a cultural comparative point of view. The cry of ASD infant are perceived more distress than the cry of typical developmental infant, and the length of the pauses, and fundamental frequency determines listeners' negative perceptions. The facial temperature (emotional response) on infant face is rise and temperature on adult face is down, regardless of the race of face. On the contrary, in cognitive response, Japanese subjects want to be approach to Japanese adult face but avoid the Caucasian adult face.

This research project also examines parental rearing and self-regulation of preschool children among Japanese, US, Turkey, Malaysia. We will analyze these data, after co-researchers of these countries collect their data.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学 教育心理学

キーワード：教育系心理学 社会系心理学 仲間関係 発達精神病理学 文化比較

1. 研究開始当初の背景

社会的行動の認知・情緒制御研究を踏まえ、人の適応におけるこれらの制御の生理学的機能の解明をさらに進める必要がある。

また子どもの社会的行動や適応には子どもの認知・情緒の制御能力ばかりでなく、家庭等の生育環境や親の養育などの環境要因が影響しており、さらにこれら個人要因と環境要因が相互作用的に影響していることも考慮しなければならない。

それに加えて、子どもの仲間への行動、また親の養育行動はその属する文化や価値観にも影響されている。日本の親子関係や仲間関係のあり方、特に親子関係の仲間関係への影響の仕方は他の文化と異なるのかを比較文化的な観点から検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は適応や問題行動の発生に及ぼす認知制御と情動制御という個人要因およびその生理機序を解明するとともに、養育行動などの環境要因の影響、また個人要因・環境要因の相互作用の影響を解明する。本研究は海外の研究者と連携し、日本とイタリア、また日本、米国、トルコ、マレーシアとの国際比較研究の一環として行う。これによって、文化的要因をも視野に入れながら子どもの適応に及ぼす各要因の役割を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

5つの側面について以下の方法で行う。

(1) 認知制御・情動制御と適応 幼児の認知的制御能力を社会的情報処理から、また情動制御能力を情動刺激時の表情変化と体表音変化から、さらに両課題遂行時の脳機能を測定する。同時に仲間関係、適応行動について教師からの評定を得る。また関連して、子どもの認知制御、情動制御と仲間への適応に関する文献の翻訳を行う。

(2) 乳児の泣きへの反応 情動刺激としての乳児の泣き声（自閉症乳児と健常乳児の2種）への反応を日本とイタリアの成人を対象に分析する。

(3) 乳児の顔への自律神経系機能 情動刺激としての人の顔（乳児の顔と成人の顔）への認知的反応（接近、接触判断）と情動的反応（体表温）を、日本とイタリアの成人を対象に検討する。

(4) 情動制御時の脳機能 情動刺激視聴時の脳機能の測定を行う。また、情動と脳機能の関連文献の翻訳を行う。

(5) 保護者の養育態度の測定 養育態度の比較文化的検討のための質問紙を開発する。これについては、米国、トルコ、マレーシア等との比較研究として各国で並行して行う。

4. 研究成果

(1) 社会的情報処理・情動制御と適応 子どもの個人特性の査定において、日米比較を行うための査定用具の翻訳とそのパッケージトランスレーションを行い、査定パ

ックを確立した。幼児の情動制御機能の査定として、望まない玩具をもらった時の表情制御と仲間関係の関連を検討した。仲間関係の乏しい幼児はネガティブ感情の抑制能力が弱い（ネガティブ情動をより早く（図1）、多く（図2）、長く表出する）ことを見だし、論文文化した。

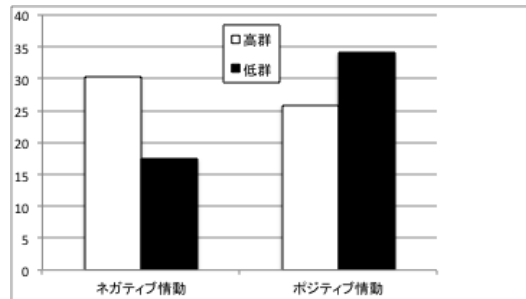


図1 情動表出潜時（高群：仲間関係多、低群：仲間関係が乏しい）

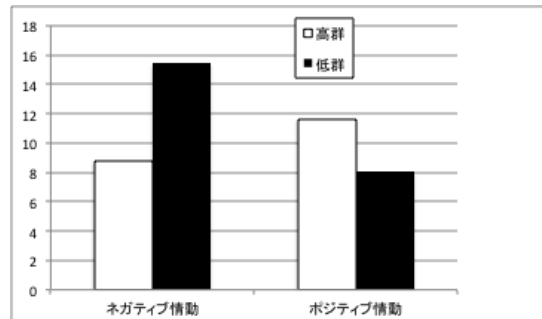


図2 情動表出数（高群：仲間関係多、低群：仲間関係が乏しい）

また幼児の仲間関係、抑制能力、社会的情報処理の個人測定データを収集した。海外チームのデータ収集が終わった時点で、国際比較データとする予定である。また仲間関係と認知・情動制御に関する専門書である「子どもの仲間関係：発達から援助へ」を翻訳出版した。関係性攻撃、感情的転回、幼児の情動制御と適応に関するシンポジウムやラウンドテーブルを国内学会で行った。

(2) 乳児の泣きへの反応

乳児の泣きという感情表出刺激に対する認知を日本とイタリアの成人対象に検討した。自閉症乳児の泣き声は、日本とイタリアいずれにおいても健常乳児の泣き声より苦痛が大きいと認知され（図3）、また泣き声からの乳児の年齢推定は女性では子どもの有無による差はなかったが、男性では子どものある方がより正確であった。イタリアの共同研究者も検討を行い、ほぼ同様の結果を得、国際学会で発表するとともに、国際雑誌に採択され刊行された。

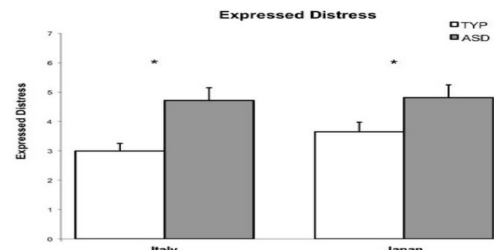


図3 乳児（自閉症児と健常児）の泣きへの評価

また、乳児の泣きに対する日本人とイタリア人成人の反応を検討し、その反応の違いをTree based modelで分析した。日本人とイタリア人の違いは泣きの反復への反応であった。この結果は国内学会で発表し、国際学会誌に採択され刊行された。

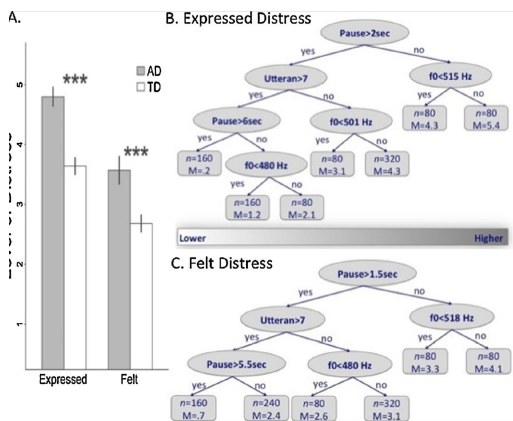


図4 乳児の泣きへの評価のTree based model 分析 (日本人データ)

(3) 乳児の顔への自律神経系機能

日本人と白人の乳児と成人の顔刺激を見る際の日本人女性を対象にしたサーモグラフによる情動反応測定を行い、体温変化が高くなる種差は無く、乳児に対しては体温が低くなること、成人女性に対しては体温が高くなること、しかし認知反応では日本人成人の顔に対するポジティブ反応と、白人成人への回避反応が見いだされた。さらにイタリアで追加実験を行い、その結果を含めて結果をまとめ、2014年7月に開催される国際乳児研究学会で発表予定である(図5) また論文にまとめ、国際誌に投稿予定である

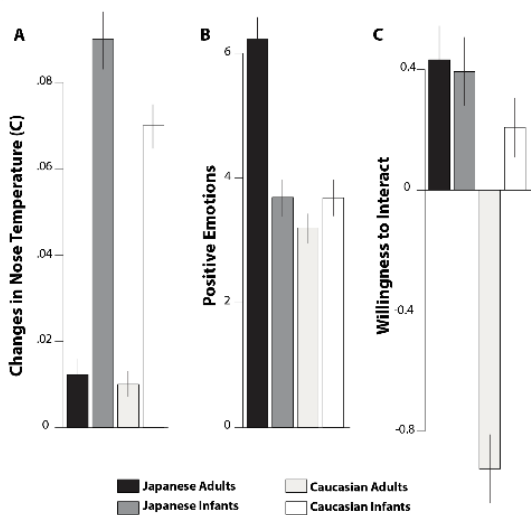


図5 白人成人、白人乳児、日本人成人、日本人乳児の顔への反応 (A. 体温反応、B. ポジティブ感情、C. 接触反応)

(4) 情動制御時の脳機能

情動刺激提示時の脳機能の測定を行った。また情動制御に関連して、扁桃体に関する書籍の翻訳を行い、現在編集中である。

(5) 保護者の養育態度の測定

保護者の考える幼児期に重要な体験を、幼稚園教員、小学校教員と比較した結果を論文文化し、国内学会誌に採択され刊行された。

また米国で出版される2つの専門書の章として、日本の父親の養育に関する研究の展望を行い、それぞれ刊行された。文化比較的養育態度測定の構築のための基礎データを取得するために母親、父親への共同インタビューを米国、中国、マレーシアにおいて行った。同様のインタビューは共同研究者が、米国、中国、マレーシアにおいて同様に展開した。これらにグループインタビューを基づく親の養育に関する質問紙を作成し、最終的な査定パックを構成した。そして、保護者(父親・母親)への質問紙を実施するチーム観察を行った。これについては海外でのデータ収集がやや遅れているが、それらと合わせてデータを報告していく。家族と発達精神病理学に関するシンポジウムを国内学会で行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

Esposito, G., Nakazawa, J., Venuti, P., & Bornstein, M. (2013). Componential deconstruction of infant distress vocalizations via tree-based model: A study of cry in autism spectrum disorder and typical development. *Research in Developmental Disability, 34*, 2717-2724. (査読あり)
2013.6(DOI:10.1016/j.ridd.2013.05.036)

中澤 潤・小川翔大・大川彩乃・伴 果奈枝(2013). 幼児の顔認識に及ぼす要因 千葉大学教育学部研究紀要, **61**, 87-94. 2013.3.1. (査読なし)

中澤 潤・竹内由布子(2012). 幼児におけるネガティブ情動の表出制御と仲間関係 千葉大学教育学部研究紀要, **60**, 109 - 114. 2012.3.1. (査読なし)

大島みずき・中澤 潤(2012). 幼稚園進級児・新入園児混合クラスにおける仲間関係の縦断的变化 千葉大学教育学部研究紀要, **60**, 115 - 119. 2012.3.1. (査読なし)

Esposito, G., Nakazawa, J., Venuti, P., & Bornstein, M. (2012). Perceptions of distress in young children with autism compared typically

developing children: A cultural comparison between Japan and Italy. *Research in Developmental Disabilities*, 33, 1059-1067. 2012.2. (DOI: 10.1016/j.ridd.2012.01.014) (査読あり)

中澤 潤・中道圭人(2010). 幼稚園教員・小学校教員・幼稚園児の保護者の「幼児期に重要な体験」に関する認識とその時代的变化乳幼児教育学研究, 19, 11-24. 2010.12.25 (査読あり)

[学会発表] (計 10 件)

Esposito, G., Nakazawa, J., Venuti, P., & Bornstein, M. (2014). The role of acoustic characteristics in adult judgements of infant cry. *2014 International Conference on Infant Studies*. Berlin, Germany. 2014.7.3. (予定)

中澤 潤(2014)幼児における情動制御と適応 幼児期の認知・情動の制御 日本発達心理学会第 25 回大会発表論文集, 60. 京都大学 2014.3.21.

Kawashima, A., Kurushima, T., & Nakazawa, J. (2013). Marital quality and coparenting behavior: Triadic family interactions with preschoolers in Japan. *2013 Society for Research in Child Development Biennial Meeting*. Seattle, Washington. 2013.4.20.

中澤 潤 (2013)発達心理学における感情的展開(Affective Turn) (シンポジウム) 日本発達心理学会第 24 回大会発表論文集, 2-3. 明治学院大学. 2013.3.15.

Nakazawa, J. (2013). Parent-Infant bonding across mammalian species and human cultures. (Chairman) *RIKEN International Symposium*. 理化学研究所脳科学研究センター. 2013.2.6.

川島亜紀子・中澤 潤 (2012). 両親間葛藤と幼児の精神的健康: 葛藤時における幼児の情緒的安定性 日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集, 405. 琉球大学. 2012.11.24.

中澤 潤(2012). 子育て家族のメンタルヘルス: 発達精神病理学的アプローチ (3) 家

族と子どもの精神病理 (シンポジウム) 日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集, 826-827. 琉球大学. 2012.11.23.

中澤 潤, Esposito, G., Venuti, P., & Bornstein, M. (2012). How is distress expressed in children with autism spectrum disorders? A cultural comparison between Japan and Italy. 日本心理学会第 76 回大会発表論文集, 1016. 専修大学. 2012.9.12.

中澤 潤(2012). 職場の勤労者の関係性攻撃を多次的に測定し、その心理社会的適応との関連を検討 (ワークショップ) 日本心理学会第 76 回大会発表論文集, WS(7). 専修大学. 2012.9.11.

Esposito, G., Nakazawa, J., Bembich, C., Venuti, P., & Bornstein, M. (2011). Perception of early distress of children with autistic spectrum disorder in Italy and Japan. *Biennial Meeting of SRCD 2011*, Montreal, Canada 2011.3.31.

[図書] (計 7 件)

泉井亮・中澤 潤 (監訳) (2014) 扁桃腺 西村出版 2014 (予定)

中澤 潤 (監訳) (2013) J.B. クーパー・シュミット & K.A. ダッジ (編) 子どもの仲間関係: 発達から援助へ 北大路書房 2013.12.20. 全 299 頁

Nakazawa, J., & Shwalb, D.W. (2012) *Fathering in Japan: Entering an Era of Involvement with Children*. In Shwalb, D.W., Shwalb, B. J., & Lamb, M.E. (Eds.), *Fathers in cultural context*. (pp.42-67). New York: Routledge 2012.10.

中澤 潤(2011) 幼児期 無藤 隆・子安増生 (編) 発達心理学 I (pp.219-262.) 東京大学出版会 2011.9.27.

中澤 潤(2011) イントロダクション 中澤 潤 (監著) 幼児・児童の発達心理学 (1-12 頁) ナカニシヤ出版 2011.3.30.

中澤 潤(2011) 発達を明らかにする 無藤 隆・藤崎真知代 (編) 保育の心理学 I

(pp.141-164.) 北大路書房 2011.3.10.

Shwalb,D.W., Nakazawa,J., Yamamoto,T., &
Hyun,J.H.(2010) Fathering in Japan, China, and
Korea In Lamb,M.E. (Ed.),*The role of the father
in the child development. 5th edition.* .(pp.
341-387.) New York:John & Wiley 2010.4.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

中澤 潤 (NAKAZAWA Jun)
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号 : 40127676